

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400217		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	日田市有田町455-1		
自己評価作成日	令和3年12月22日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4490400217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府庁番館 1F
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の持つ能力、残存機能を最大限に発揮できるような環境づくり。 利用者だけでなく、職員も一緒に楽しみながら笑顔で1日を過ごしていただけるような生活の場の提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人聖峰会として、4ヶ所目で昨年3月に開所した1ユニットのグループホームです。併設するデイサービス・小規模多機能施設とともに利用者・職員の交流等単独では得られない総合的な支援による運営が行われています。管理者は法人での経験を重ね、そのノウハウを活かしリーダーシップを発揮する中で、利用者が居心地良く暮らせるよう日々考え、職員とともに切磋琢磨する様子が伺えます。食事を楽しみにする利用者が多く、手作り料理にこだわり、行事食や家族の要望でビール(ノンアルコール)等の提供や、利用者も準備や片付け等出来る範囲で一緒に行っています。職員を育てる取り組みとして月1回の法人研修や勉強会で資質の向上・キャリアアップに向けた支援を行う中で、利用者との会話では尊厳を忘れず、丁寧な話し方(敬語含)で声掛け・傾聴の姿勢に徹しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念は玄関に掲げ、職員と共有を行っている。	法人の理念をもとに事業所理念が作成され玄関等に掲示されています。毎月のミーティング・勉強会で理念に沿った対応ができているか職員全体で話し合い、具体的なケアについて意識の統一を図り、理念の共有と実践に繋がっています。	職員は理念に込められた意味を改めて勉強会等で考え、自身の行動や取り組みを通し振り返りを行っています。更に日常的に理念を念頭に職員個々の目標の設定で、理念を常に行動の模範とできるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、地域交流は出来ていない	コロナ禍により地域との交流は自粛していますが、現在は運営推進会議で情報交換を行い、月2回の広報誌の配布・自治会への参加等で交流を図っています。コロナ終息後は支援学校や小学校との交流・有田町夏祭りの参加や協力など、新たな交流の機会を考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の施設では見れなくなった利用者の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度の最初の3回はコロナ対応の為、文書にて報告。11月より会議室にて開催。ヒヤリハットの報告等を行い、市や自治会からの意見を頂いている。	11月に初回の運営推進会議を開催しています。事業所及び利用者の近況報告・ヒヤリハット報告とその対策等を議題に挙げ参加者と意見交換を行い、出された意見等は職員で検討しサービス向上に活かしています。	運営推進会議の議題及び検討事項や懸案事項について、議事録を作成しその経過を細かく報告、参加者と職員との双方向的な会議になる取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあれば、すぐに市の担当者に相談している。	市の担当者とは運営推進会議の参加やメール・FAXでの情報交換を行うとともに、気軽に相談ができる良好な関係を築いています。認定調査では担当職員や地域包括支援センター職員・民生委員・市の関係者と協力関係が築けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵等は必要最小限にし、外に出たい利用者には希望時に散歩に出たりしている。	身体拘束について、年2回以上内部研修を実施しており、職員は拘束について認識を深め、事例をもとに自身に置き換えて、検討する機会を持っています。研修では、職員のメンタルの重要性についても話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ビデオ研修などにて学習し、職員同士で注意しあい、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は行っているが、職員に対しては行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、家族の希望も伺っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者が対応し、家族との話を聞いている。	利用者の意見は日頃の会話の中から把握し、家族に関しては、面会時や電話連絡で意見・要望を聞き取るよう努めています。家族から花の差し入れ、日常の過ごし方の要望等忌憚のない意見が出されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行うとともに、ライン等を活用し個別の案件にも対応している。	職員は、普段から業務の改善やケア向上に繋がる意見を発言しており、内容を検討し運営に反映しています。年2回の個別面談や話し易い雰囲気を作ることで、職員の働き易さに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスチェックを行うなどして、職員の心のケアに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはアセッサー制度を設け、毎月の法人の研修を義務付けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で本年度は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時におおよその事は聞き取りを行っているが、入居された後は、なるべく話をする機会を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に行っている。スタッフが出来る事、出来ないことを話し合う機会を持ち、その利用者にあったサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に聞き取りを行ったことを、サービス担当者会議を開くことで、ケアプランに反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員共に楽しむように指導している。職員も、利用者が何に興味を持っているか等、聞き取りを行い、利用者が喜んでもらうよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族とのコミュニケーションは忘れず、お互いに協力し合う体制を整えている。家族との縁が切れないように衣替えなどを家族に対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の許可を出すことで、自宅に帰ったり、馴染みの散髪屋に通ったり出来ている。遠方の方は電話での会話を楽しんで頂いている。	事業所は、利用者のこれまでの生活の背景や人となりを尊重し、菜園での野菜や花作りには利用者の特技を活かし、趣味や習慣を日々の生活の中で支援しています。また、家族の協力で馴染みの散髪屋や美容院に行ったり、外出で自宅に帰る方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が見守り利用者同士の間に入ることで、利用者同士の関わりに携わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にご家族への声掛けは行っているが、連絡が来たことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを参考に、生活歴や趣味等を聞き取り、本人らしさを尊重し、プランや生活に取り入れる努力を行っている。	利用者の意向を最優先し、普段の会話から思いを引き出すようにしています。表出困難な方には、生活の様子や家族の聞き取りから推察し支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の方に習慣や好きな事を聞き取り、歌や畑仕事を生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、フロアや居室で過ごされる方の思いに応じた生活が出来るよう、所在確認等の記録を行っている。色々なことを見守りながら行ってもらい、どのくらい出来るのかの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行うことで、家族には現状の把握を行って頂き、今後の希望や支援方法を行う。3か月ごとに計画の評価を行い、見直しを行っている。	サービス担当者会議を開催し、日常の支援での気づきや利用者・家族の希望・担当職員の意見等を勘案し、介護計画を作成しています。3ヶ月毎のモニタリング及び見直しを実施し、ミーティング後 職員間で情報を共有し現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングノートを活用し、情報の共有を行っている。毎月のミーティング時に各担当者がスタッフからの聞き取りを行ったり、アイデアをもらい実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設に比べ、柔軟な対応は出来ていると思う。(お酒が飲みたいという利用者、ノンアルコールビールの提供など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校や支援学校との交流を行っている。鼓笛隊パレードの受け入れや、訪問しての学生との交流など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医はそのままに、往診や受診援助にて対応出来ている。	かかりつけ医への受診は、家族が月に一度定期的に行っており、入所時に家族と話し合いの上決定しています。主治医の指示があれば、利用者の病状に対応できる医師を紹介して頂き、適切な医療を受けて頂けるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護現場に入っている為、常に情報の共有は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書を活用し、看護師同士でのコミュニケーションは取れている。退院時等の情報は、病院のワーカーと連絡を取りながら管理者が情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行う際、ご家族、主治医、訪問看護で話し合いを行い、事業所で出来る事、出来ない事の情報共有を図っている。	看取り計画書を作成する際に、オンコルフローチャートを用いて話し合いの上、利用者・家族の思いを尊重して、看取りを行っています。共有の広間で、他の利用者と同じスペースで最期まで過ごして頂いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のオンコルフローチャートの作成は出来ているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。現在は火災限定な所があるので、今後、地震・水害に対応したBCP作成に取り組む。	避難訓練は、年2回利用者と一緒にしており、火災・水害・地震等に対応出来るBCP(事業継続計画)の作成に取り組み、今後は災害時における地域住民との協力体制を築きたいと考えています。	災害発生時の、緊急連絡時の伝達体制や連絡手段等のマニュアル化と備蓄品リスト等の管理に、きめ細かい災害別安全対策の指針作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、相手を思いやり、敬語で話すように心がけている。	利用者の中には、愛称で呼ばれる事を喜ぶ方もおり、その時の表情を読み取る事で敬語や親しみある方言を交えて、話しかける事もあります。和やかに過ごせるよう、職員全体で情報共有し支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声掛けを行い、その時に何がしたいかを自己決定していただき、職員の都合で動かないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記のとおりだが、意思決定できない利用者に対しては、こちらからの提案の中で選んで頂き、無理強いはいしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい利用者には、スタッフや家族の支援にて行っている。朝の整容は出来るところまで自分で行って頂き、出来ないところのみ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は行っていないが、月に1回程度、何を食いたいかな聞き取りを行い、スタッフと一緒に調理することはある。(行事として)	三食手作りで提供しています。入所時に嗜好調査を行い、食事を出した時の表情を見て好き嫌いをくみ取っています。利用者が残したり食事が進まない時は、刻み食や食器を変えたり工夫し栄養面も十分に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の量は記録し、水分制限や禁忌食などの確認を毎日行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員の声掛けにて行っている。出来る範囲で行ってもらい、出来ない部分はスタッフの介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員に、定時での声掛けを行い、排泄チェックに記録することで、排尿の間隔を把握している。トイレ内では出来ない部分だけを介助している。	排泄パターンを把握する事で定時の声掛けを行い、訴えない利用者や排尿障害のある利用者は、必要なタイミングでトイレでの排泄支援をする事によって、自立支援につなげ、QOL(生活の質)の向上に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを記録することで、量や間隔を把握し、腹部マッサージを行ったり、牛乳を飲ませたりして排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は施設で決めているが、声掛けに拒否が見られたときは、時間をずらすなどの対応を行っている。終日気分が乗らない場合は、曜日を変える等の対応を行っている。	週二回午前中に入浴となっていますが、面倒くさいや、今日は気分が乗らないとか、拒否の利用者は相性の合う職員がタイミングを見計らって声掛けして、出来るだけ入浴して頂いており、機械浴で安全に浴槽内の時間を楽しむ、利用者もおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は散歩や日光浴を行ったりし、夜や夜間帯はそばに付き添い、話をゆっくりきく事で心穏やかに休んで頂けるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて何の薬化を把握し、飲ませる際にも2人で確認を行い、飲み忘れや、内服間違いないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅でも行っていた、掃除や洗濯ものたたみを行って頂いたり、調理レクを開催し、食事やおやつ作りを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、近隣の散歩や利用者の日用品の買い物、畑の草取りを行う等の支援を行っている。近隣のイベントにも職員付き添いにて参加している。	コロナ禍の今、通常の外出支援は殆ど出来ませんが、利用者の希望があれば感染防止対策に細心の注意を払い、出来るだけの対応策を講じています。施設内の庭での畑仕事や草取り等、日常生活の中で気分転換を図る支援に努めています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預り金として施設にて預かっている。希望する利用者には財布の中に最小限のお金を入れて持っていていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚からの電話の取次ぎを行ったり、希望があれば施設から電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には職員や利用者の手作りの作品を飾り、毎月、その季節に合った作品を制作し、展示している。室温や湿度の調整を行い、くつろげる空間づくりを行っている。	広い共用空間の特性を活かして、壁面には季節ごとの花や年中行事の風景を、職員と一緒に折り紙で制作した、手作り作品を展示しています。利用者が好きなどころで自由に過ごして頂けるよう、テレビやソファを配置し、心地良い時間を持てるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビとソファを離れた場所2か所に配備し、利用者の好きな場所で過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自宅から持ってきていただき、写真やプレゼントを置くことで、利用者が居心地よく生活できる環境づくりを行っている。	居室は自由空間として、趣味のギターやレコード・盆栽等を自宅から持ち込み大切なものとしてベッド横に置いて眺める利用者もいます。一緒に盆栽の水やりをしたり、利用者がギターを弾きたい時はボディを支えたりして、演奏を楽しむ事もあり居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。	今は、家族との思い出の写真を、自室に貼っている利用者はいませんが、職員から写真を見ながら話を盛り上げる事で喜んで頂けるよう、家族に写真をお願いしたい提案は実行を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように、椅子やソファの配置を考え、介助を必要最低限にする環境作りを行っている。		